

普通栽培（10a当たり）

令和5年産

加古川良質米栽培ごよみ

土づくりの三本柱

- 秋すき**
稲わらは秋すきで土と混ぜておく。腐熟し、良質堆肥と同じ効果がある。石灰窒素（20kg/10a）施用で稲わらの腐熟促進効果がある。
- 深耕**
作土層が浅くなっており、地力低下に拍車をかけています。できるだけ深耕に努めましょう。トラクターの速度を落とし、一番遅い回転でロータリー耕を行う。
- 土壌改良資材の投入**
根に活力を与え、根ぐされを防止し、倒伏や病害虫に対して強い稲となる。

わら
+
石灰窒素

効果
①養分の貯蔵庫を大きくする。
②肥料の効果を高めます。

- 土壌分析等による適切な土づくりを行ってください。
- レンゲ栽培田には、土壌改良資材を、すき込みと同時に散布しましょう。

食味向上のポイント

- 玄米のタンパク質含量、アミロース含量を抑える施肥管理を行いましょう**
※穂肥は出穂15日前までに行う。それ以降の穂肥、実肥は行わない。
- 苦土肥料を施用しましょう**
苦土一番の施用を行うことにより、苦土が光合成に関与し、登熟歩合を向上させます。
- ケイ酸質資材を施用しましょう**
ケイカル、ミネラルGまたは省力化の「土力の達人」等のケイ酸は、窒素をコントロールし、稲の穂を強くします。

育苗のポイント

育苗用培土の使用量の標準的な目安（育苗箱1箱当たり）

- ◎粒状培土2号 床土：2kg 覆土1kg
- ◎グリーンソイル 床土：3kg 覆土1kg

浸種
種子量の4倍の水を使用。
浸種日数目安
15℃の場合は6日間
20℃の場合は4日間

注意事項
①停滯水で行う。
②最初の2日間は水交換をしない下し。
③2～3日に1回の水交換を行って下さい。
④水の水交換は静かに行ってください。

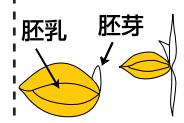
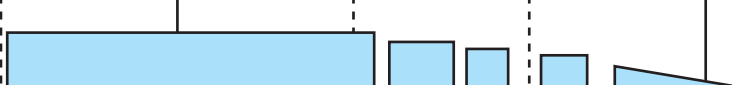
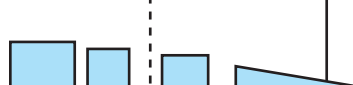
催芽
ハトムネ状態になるまで浸種し、催芽する。
(ハトムネ状態)

床土消毒
床土灌水後に
ダコレート水和剤
400倍液を
500ml/1箱に灌注
播種時に灌注

播種
○播種量は催芽もみ
120～130g/箱
○種子を均一に播種する。
○覆土（もみが隠れる程度）

育苗
育苗箱は床面に密着させる
遮光フィルムによる
トンネル育苗
80%遮光フィルム…幅230cm
(シルバーボルトク)
厚さ………0.05mm
※灌水満に多く水をためると発芽不良をおこす。
特に育苗初期には水をためないで下さい。

育苗中期管理
○播種後、遮光フィルムにより完全密閉したままの状態管理する。
○播種7～10日後、2.2葉期苗になれば遮光フィルムを取りはずす。
○遅れると、徒長苗になるので、右図を参考にして、よく観察し、適期に遮光フィルムの取りはしを行う。

品種	5月			6月			7月			8月			9月			10月					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
ヒノヒカリ	生育のめやす			田植えの適期は6月8日～14日頃が 良いでしょう。			有効分けつ決定期			幼穂形成期			出穂期 ・ほ場を見渡して、 稲の5割が出穂し た時期			高温対策 ・出穂期以降、夜温 が低い時は、夕方 から新鮮な水を入 れ直す。			成熟期		
										 1.5mm 幼穂長 2.0mm									 早期落水防止！！ (刈り取り前5～7日まで 間断灌水を実施し、品質 向上に努めましょう！)		
	水管理						間断灌水														
	作業			播種 (5/15頃)			基肥・代かき 防除 (6/10頃)			追肥 (調整肥) (7/3頃) (7/10頃)			穂肥 (8/8頃)			防除			落水 (刈り取り) (10/7～16頃)		
防除作業	※農薬の飛散防止の為に、 粒剤を使用 しましょう。			田植当日 箱防除の徹底 いもち病・ツマグロヨコバイ・ ウンカ類・ニカメイチュウ対策 ツインターボ フェルテラ箱粒剤 50g/箱 (またはフルターボ箱粒剤50g/箱)			ジャンボタニシ対策 田植後～ 収穫60日前 スクミノン粒剤 4kg/10a			紋枯病から カメムシ・ウンカ類の対策 ゴウケツモンスター粒剤 3kg/10a フルターボ散布田については 省略することが出来ます。			カメムシ・ウンカ対策 スタークル粒剤 3kg/10a または スタークル豆つぶ 250g/10a ※ゴウケツモンスター散布の 場合は必要ありません。			ウンカ対策 トレボン粒剤 3kg/10a (収穫21日前まで)			出穂後45日を目安にする (初の色が90%黄熟)		
	赤字は 重要防除			※苗をJAで購入される方は、薬剤が 既に入っておりますので、ご自身で の散布は必要ありません。																	
作業記入欄																					

重点病害虫
イネミズゾウムシ ジャンボタニシ ヒメトビウンカ 綿葉枯病 葉いもち病 ニカメイチュウ セジロウンカ コブノメイガ イチモンジセセリ (イネトムシ) 紋枯病 穂いもち病 トビイロウンカ カメムシ類 (ホシハカメムシ) 斑点米 (カメムシの被害による)

要注意 ジャンボタニシ対策
①稲刈り後や厳冬期に、ロータリー回転を速く、走行速度を遅くして耕耘しましょう。
②田面は均平に、田植後2週間は浅水（水深4cm以下）で管理しましょう。
③水口に網を張り、隣接ほ場や水路からの侵入を防止しましょう。
④ほ場や水路で貝や卵を見つけたら、すぐに捕殺しましょう。
⑤薬剤は湛水時に散布し、散布後は落水やかけ流しをしないようにしましょう。

**病害虫防除の省力化の為、
箱処理剤は必ず施用しましょう。**

より安全な栽培のために
①風の無い時を選んで作業しましょう。
②露のあるときの散布は避けましょう。
③農薬散布のときは必ずマスクをしましょう。
④住宅付近の農薬散布は十分注意してください。
⑤稲作気象台情報を参考に防除を行ってください。
⑥農薬使用については最新の登録情報を確認してください。

ヒノヒカリ (単位:kg)									
分施肥体系	肥料名	総量	基肥	追肥	調整肥	穂肥	成分総量		
	アツミン	40	40				N	P	K
	リンスター	(40)	(40)					(12.0)	
	硫燐48号	30	20	10			4.8	4.8	4.8
省力体系	苦土一番	(20)			(20)		苦土・ケイ酸の補給		
	ニューかん太郎有機	30				30	3.6	1.8	3.6
	成分計						8.4	6.6	8.4
	アツミン	40	40				苦土・腐植の補給		
省力体系	リンスター	(40)	(40)					(12.0)	
	LPコート444E-80 (140日タイプ)	60 (50)	60 (50)				8.4 (7.0)	8.4 (7.0)	8.4 (7.0)
	タキコート4771AE (120日タイプ)						8.4 (7.0)	4.2 (3.5)	4.2 (3.5)
	成分計						8.4	8.4	8.4

除草体系 (10a当り)
※初期剤+中期剤の2回散布により確実な除草を行ってください。
田植直後～田植後5日
シヨキニーフロアブル
500ml
田植後7～14日
エンペラー
1キロ粒剤 1kg
田植後7～14日
エンペラー
フロアブル500ml
田植後7～14日
エンペラー
ジャンボ250g
田植後25～40日 (ノビエ5葉期まで)
クリンチャーバスME液剤
1000ml
(収穫50日前まで)
田植後25～40日 (ノビエ4葉期まで)
ヒエクリーン/バサグラン粒剤
3kg
(収穫60日前まで)
田植後25～40日 (ノビエ3.5葉期まで)
セカンドショットSジャンボMX
500g
(収穫45日前まで)

主要な雑草
ホタルイ
キシキブ
セ
クサネム
イヌビエ

◎ 栽培履歴を記帳しましょう。 ◎ 「無登録農薬」を農産物に使用することは絶対にやめましょう。